中村俊定文庫
文庫 18
874
2

宮城県図書館

冬椿集下卷

冬之郎　自然堂社輯

中村俊定文庫

初冬や水よりさむと魚の鱗　如草
中京を消志ゆきの日の面　尤右
去年や光を失の物ゆゑ　氷壺
泥濘千家鴨乃加せく時雨の音　鹿山
鞋よ紙鳶の糸の紙　俊芝

風の止て行うつし　山水留　釈桃阿

汐さす川は埋む蘆葉の末　山分

未発の居てもの淋しき秋の暮　一具

埋火や夕の鼎の音小し　助宵

の降日よ雲や炭の切小し　季碩

雨の外や雪ちる夜　駐雨

寒暖を為のうつや夕ぐれ　正甫

黄昏を泳ぐ田面の蛙　梁林

ふの雪をもゆてやうの沈　三和

首ながき人をうつや雪の一つ　巴山

遠方や明るまよるの山と孤　紋深

寒さをいとお邪の寺の雲　雀角

炭俵をもて来るや石の巴つ　雲分

一汽車来ても鎖ふ音の　学村

清水の樹も岩もみな初時雨　奥清志

色まさる雲を映せんやまの紅葉　コヤコ　ひ良

山もみぢ紅葉やうつしくる色、　桂舟

時雨降かとハ人もとも立ぬか、　ひてめ

お宮ら初冬の時雨の降るれハ　雲涯

緑の春背中とけく巨燈角　チクセン　芦雪

竹ぬうて見ぬ一兵　ヒコ　仙翔

梅先や巨燈の角ハ春ハ　サカミ　可頑

八幡の仕出竹ハ梅ハ　ナニハ　其山

面の春もまや竹梅ハ　ユキコ　月昇

木かくしや社ハ一点所　イセ　梅曦

風ぬ山もみぢ雪もくるる　ムサシ　青扇

麦畑の日梅ハ春ハ　アハ　自来

路迄ハ春ハ　ニ宅　勇〻

都まで面白ハ春ハ　スルカ　青崖

酒酒と浸る人ハ春ハ、　僊基

[illegible]の[illegible]や[illegible]を[illegible]（サツマ）乙[illegible]
[illegible]や[illegible]の[illegible]、波文
[illegible]の[illegible]の[illegible]（ヒコ）[illegible]湖
[illegible]を[illegible]置[illegible]一呼（イセ）
[illegible]を[illegible]帰[illegible]（ヒヨリ）我竟
[illegible]（ミカハ）之岳
[illegible]日和[illegible]（サツマ）得之
[illegible]、清流

村[illegible]（ユチコ）桂雨
毎峰や[illegible]（イカ）響秋
暁の垣根くもりやうすき（テハ）涼苟
[illegible]（オク）江之
桔梗や日ハ[illegible]（ヨリ）之江
[illegible]（サカミ）[illegible]
[illegible]（アチコ）石竜
[illegible]、都谷

剣ゝ吉ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　石亭

山茶花の根元ゝ[illegible]ゝ小筆[illegible]ゝ　サナミ　安成

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　志仁　且松

初雪や[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　ユキヲ　安雅

冬[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　柏雨

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　宜雨

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　ナニハ　素屋

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　アラミ　仿山

芦の葉乃雪ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　梅下

掃屑けゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　イセ　恵雨

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　ヨハリ　黄山

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　ミヤハ　遵字

雪の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　ユキヲ　和子

雪の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　ヒタチ　李仙

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　アハ　相亭

雨[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　シナヌノ　左

鬼の城と国つくりや現代語、圭角、
二六、度ハ伊勢車にて参詣 オガ 鬼雲
業をなすも京にて世を経 大費
所を祖の角も国を海嵐 ヒセン 寸長
形橋乃縄も長の角 ヒカ 雲路
異国にて海を泳ぐ鮫をなく、天朗
形別に寄の世を鮫の郎、蟻丈
生を賛ハ後へ思ふ者を所市、百分

遠くより行かの屋を山の角！ チリ 山岸
数多りの形より絶し鶴の夢 ユチヨ 発仙
庶民人も身を生ずや蔥什 ミカハ 般丈
猫を部を魚を河を郎 ヒセン 浮童
森入を形寄紙や見を念仏 ユチヨ 風眉
辻へ来ニ又為ずや屋ず剃、好都
鮫の鳴を足鮫ふて遠人多、未秋
字鞋ずいを生ず比ず桶素 カヒ 田表

雪ちるとみるまでに雪の雨　ヒセ　眉山

春雨やちらぬ桜のそらんぬ　アハチ　魚樂

ちるもまも紅ちる雨を雪ぬ　アハ　仰牛

春く部

和かな春見添す格の雨哉　魯心

春雨も鹽よりぬるる雨　杜有

ちるぬ如菜つむ野の水乃春　岳陸

海士の苫菜も豊なる朝日和　万古

明ちるるてゆく朝さんぬ　荷水

朝寒の如移へる酒屋の春　祖仁

ちるとる篠の反るる雨哉　伯遠

白波のちるを止めて流へる　雨

春宋ちる如春を押へかふる雨　秋雨

青の霜雨ちるかるる日の雨　嵐し

青屋のうら移りて魚の市　二柳
西うけや梅ちる家陰の部屋　烟
紅屋八軒くれぬうそ梅ちる　蓋光
ゆくさきの日さしも深やう糸の花　呂川
無言のるよりうつや寒庵　仙尼
咲ぬや一日二日島巣白ふ　丘鴻
ちる雪乃如きそこ梅ぶ　梅笠
黄鳥やうのもうもうもて行　鵜角

小松野よ春雨ふや雑木の芽　炉雪
松の屋の松陰や一人　峰蛙
芽よ羽をひろげまきや四五蝶　竹女
波よ蝶孫よ淋しく第よ雪　梨秀
ちるちる猫とちるや海の月　木卯
四五枝の松よ青雲一表の月　万頃
雪の影をちや陰ふ行孫ぶ　甚雪
色是ハまと松乃明朝きみ　大之
　　梅舟

為平家物語の祖父良　知白
世古や為爾峠　春と花　角田
一番のことこんをハ　秋の茶　柳美
咲き盛る色や湯ゝの間ゝ　幻子
雪解て水ゝも若草　野ゝ打　知足
喰ひふて世宋の花ちる　茶陽

さみ郭や藤袋のゝゝも幸のうへ　ラハ　橋月
波かゝら長ふてさゝゝ初日影　さゝり　應志
掃除して物ゝや初日の若菜　ヱチコ　種雄
和尚や迎行新酒、清き、　大栗
一輪ゝ眼のゝゝ福寿草、　桐雨
茶水乃物親さ、ゝ男ゝ角　カヒ　樵義
蓬葉ゝ焼ゝ物味変ゝ　シチヌ　万竜
野山ゝ雪ゝ竹門の睦月　サカミ　薫砂

[illegible] 九起
[illegible] イセ 双亀
[illegible] フミミ 岳風
[illegible] オク 赤月庄
[illegible] 松ヲ 一甫
[illegible] テハ [illegible]
[illegible] イチハ 成山
[illegible] サツヘ 桃戟

下三下九

千鳥の[illegible] アヤメ 芋丈
夕和や[illegible] ヨウリ 船石
[illegible]のさ[illegible]や[illegible]のめく[illegible] ニオイコ 雨村
[illegible] 鬼哭
[illegible] 、 松嶽
[illegible] シナヌ 湘玉
[illegible] カハキ 自来
[illegible] サト 良淡

下十

[illegible]原や稲を[illegible]て　中[illegible]　上毛　木公

[illegible]　下毛　杜山

[illegible]や湖を[illegible]　新甫

[illegible]　野分

[illegible]　カツサ　羽人

[illegible]　ナハリ　荷分

[illegible]　ユチヲ　桐葉

[illegible]　シナヌ　一之

[illegible]　マルカ　滝山

[illegible]　吉伯　香羽

[illegible]　サカミ　山覇

[illegible]　アハ　楚宮

[illegible]　ハリマ　可大

[illegible]　イタミ　太乙

[illegible]　イヨ　几霄

[illegible]　イツモ　北方

まつ人の義かとうや　梅の目（イセ）　法石
梅が香肩はけて　ふるふ　、　桂洲
年を梅に梅よりこそ　会せけれ（京）　盛年
子宝のかよ回も　梅の毛　、　有節
梅よ流よ海をも　ゆけて　貸はな（テハ）　露光
小流よ　ふて　新　くるめの花　、　桃曉
約束の梅又四　春後を　（カツサ）　茅舟
今新のさくや　梅うさる（ヨチコ）　帯雨

今時こそ思ひ　梅が梅（下モ）　其翼
四季も家も　ちくらの　（サト）　赤楓
折ふ時　春　酔　（フセン）　可梅
数のゆき　川を　ゆく　（ヤ）　天梅
青苔の　ゆく　谷や　谷乃梅（ヨチコ）　水哉
苞さけて　梅さう　春や　春の花　、　越雪
雪よもこそ　思ふ　や　山　に　鶯　、　久竜
木の梢　雪の　梅ひ　、　漂香

蓼穂や赤き実ながら穂ながら　イヨ　素亭

雪の角を折るまぜハ小雪の事　フセシ　木父

うとひすや一寸ばかりの井戸の先　ケツマ　双舟

黄鳥の鳴く音一角のひろ　キヒ　千竹

雪乃峠雪のあるうちまでが　オク　東里

素麺や紙袋をひろげ板屋　ヒロメ　平雄

通つるるおきて素の音ばかり　ヨチコ　意化

雪鳴を聞くと届けける餅寒ぶ　ナハリ　酔雨

ひと筆うちたて大地の餅寒ぶ　アハキ　蒋地

雪忘れて雪ふるうちの餅　オリ　多阿

素うどやきうどん忘れ水子　レナヌ　若人

ちらし風流利根て汁ばかり　ヒコ　十年

柳の下や明るく能くちらの花　ヨチコ　波翠

柳那と雪の中ちら実ばかり、　文魚

法花ハ蓮き焼酎や猪の寿、　南映

蓮葉の数千年ぶや二十九打、　菊子

山の空とけて海をてらす蛙（スルカ）　蕉

ちりめうの障子ふるく初の蚊（サカミ）　木節

あらたまる年毎ごとの常住（ヒチコ）　蓼太

春過て蚤よ蝨はく性可有（サツマ）　史邦

雪のふる毛も色日ふくまるる、　湛文

春雨月夜ふるの葉ふる　（サト）芦風

広沢や春ふるをめぐる梶自（ヒチコ）　康所

春雨ふるやおほろに湖ふる　（サツマ）左堂

思猫の恋ふるや春の沢ふる、　巴雲

西ふけて春の物ふる橋稜（ムサシ）　桃御

手庫に植て長ふる蕗の曲（シナヌ）　白亭

春ふる名のしるふる磯、　月外

節笠ふるの撥捨ずや巣の葱（カ、）　柏実

春柳ふるるも見ぬ床ルが（ヒチコ）　弘ふ

青葉や春思をふる雷行所、　宜春

夕ふる秋水ふる柳ふる、　仮月

海辺の人は見て居る柳うの葉　シナヌ　香石
紅葉人多き所なれば　ノト　明石
法華堂や柳を鉾に　オク　西嶽
人待や寄り解き結んだる　サヌキ　今是
結ぶ樹を素とする柳ぶ　イヨ　黒雅
押紫て解も枝めく寄うれ　チクコ　赤鮮
春の雪や二月の山を絵　エチコ　支是
苗代や陽も傾き方明る　、　雲洞

糸まつて苗代水の古ひを　、　可申
種下し石和糸陳を水の上　カツサ　如英
苗代や寒き色を寒慰　ヲハリ　思文
赤き魚や春の山ちく岩ひまの　チクコ　松代め
高の山さ乃果を深し春の山　、　木屑
和糸の絵四辺ゆ麦まき　テハ　吟震
義人の男ひまる為替り糸　トフサ　糸風
出代と名も河一名の苗空ぶ　ヒムカ　巴石

出代や提をちらす稲ばと　チクセン　千十
雪の踏つめてちる雪ばゝ　宇逸
雪峠や聖書の日和も魯のゝれす　ヒセン　米吾
相州新のうりや根ぎしろ　イヨ　波風
富士のふもとゆるる諫う車　ユチコ　寿泉
峠のふもとゝ結ぶや烟ゝう　上毛　一朗
出てゆくゝ者日のさゝやや舵の音　岳羊
梅柳陳ぬしらへて出ゆくゝ　テハ　万丈

義人や川の流を傷ゝ、赤山
雪ふまるゝ雪ぎしの森老、可慎
只行ふ仕ふ沙千ふ、幽雅　サカミ　秋平
ちやくと川ゝ赤ふむ沙千れ　ミカハ　塞馬
絶うるて遠行　帳や鶏ふき　ミヤコ　芳英
橋うけや海ゝかゝを八花妨帳　ナツマ　竹里
葉の色や田舟烟雲ゝる車　タニハ　湖舟

葉の色よ萩ちるまで　畑可南　カヒ　二葉苗

風吹て居て咲南　一うらかれ稲、　雲里

紅葉や年の面ハまとうてまと　ヤ、　丹嶺

入れの月見よ紅や田の柳　テハ　陸南

面もまて蛍深よ俤うる蘆の乱　十二ハ　禾咱

蓑を掛ちまの身ぬ樵ニう雨　俄中　恕兮

れ持て蛍　植カ陸ちまぶ　松古　字路

振南ちまもちぬや赤　樵　ヒセヒ　路苏

ちもやかたやさ枝の咲ちひ　十三ハ　祇白

ちの宮や一枝ちうちませ片き　サカミ　梅里

神ちれやまは乃抗の寿　ヨナコ　公水

振ちて小ちへや花乃ち、　對楊

等色の乱ちまく　樵ニう雨　シナヌ　可厚

咲ちて色ちぬ宝の陸　サカミ　凡和

まちくと赤地の宮ち行　五爲　菜尾

嘱ちる乃里ちんち紅や色の乱　ヌモ　赤足

鬼ひしぐ山々郭しく撫う角　サト　君海

初音なる仏ぐるまや紅葉の岩　モミ　桐古

さゝ帰や山さみよる蕨の形　三田　友月

鶴の鶴なる春の山ひきの岩ひく　ミナヌ　梅壁

猪屠の捨れもさゝ鶴の花　松子　赤泉

蕨風と鶯つゞかて霞ひり　コ十セン　半雄

長日さや新の石性ひひ　コキコ　晴山

巣ゝ又猪もめ〻しへ中、汁月

山路ゝ石もあ物の屋ゝて角　サト　香松

山吹や足洗ふてもちぬ為　アヲミ　蒐青

山ふきや弱の生ゝ蟬　コチヨ　尾泉

山路や猪つけ八ゝ蕨も世蕨　イカ　蕎仙

川原ゝ石引　法や谷を雲　コナコ　奇峰

夏ゝ部

和国歌の先達あやめ草　稼蕉
鎌倉の中ごろ　遊楽
酒船乃能く自ひやむる菊　蕉年
鶴の眉ゆ伊勢をさす新松原　后分
歯源て陸を隔て物ふる氣　波暮
菊の艶のうとを奪ひ相撲　竹城
居あうゆ夜を未明の時分　丁知
学も未だ戦きして時鳥　宇六

言山
登更
由誓
濤めい
呂風
秋星
一秀
重星

もの云ふ松の下陰
杜若枯立すを嘆ふ利
情話のやうもひ人を鄙び
動くくを岩根水鶏や戸さす時
見つゝ繰りもて蟬の音
菊の枕ゆ一つ重ね
うも敷と寝ぬ枕を吹ぬ
岩掃く屋のうち行扇

一志ゆゑ身を入れて櫂うる事　惟孝
のゝ虫をとゝ八絵に新蒔蒔　念〻
水に浮世の根赤に夕日苗　白雄
のゝ松の梢に夏行田植ぶ　由之
春の一夜さを明るを松ゆ　行山
蛍籠中を雑や掛ぬ　挑灯
ちゝほゝと笹の葉や初不ち　蕎路
禁裏もの行きゝ八時の灯籠ゆ　澂め

拾ひ集て鎌をもふやゆ　知雪
一志ゆゝ峠ゆ行ゆ新の蛙　玄度
ほゝちゝ出を拾ゆ蔵の車　謝堂
大原ゆ行くて見ぬ毛無ぶ　雀丈
乗ゆ百ぶ二の鶴ゆ絶ゆ　又〻
六月や蟬の門を掃ゆ　千代
旅人のゆたつ夏木立　松堂
東都や動雲踏ふて笠を行　宋角

雪ハきえて春たつ花　暉遠

旅人とまれかの家や蕨の宮　得雅

炭の香ゆ婚礼を和稿　ムサシ　素麺

野いかゝ高ひとかゝ稿　フンコ　絡方

無名の井や稿の呂ひゝ　ヒタチ　郭巣

門畑のゝゝ沼めき夢ひゝ　三定　茅舎

向ひやゆ川を分て春雨　下毛　柳塢

絡仕ゝ稿の乃ゆ春ゝれ　江戸　櫟

庫をうて海強ゝ蕨ゝ　オク　北麟

大連の稿立ゝ和ゝ　チヤセン　和風

ゆゝゝゆゝて春ゝ春ゝ　オハリ　素行

ゝの稿ゝ重ゝゝ春ゝ　ヒセン　楠坊

春春ゝゝゆゝ村の春ゝ　コヤセ　晴松

郭の春や春一四三八ゝ　テト　梅之

郭公ほとゝぎす　テハ　甚柳
上下ゑぼし　ヨツ　源氏やかしこき　ユチコ　五瓢
又世ハ又　杜宇　天平　思鮮
時雨　ヒ　時の京の　イタヒ　曲阜
海上の月も　アヒ　鳩鷹
沖あをし　イセ　雲石
所中　ヨツ　清井　あを　壺天
きけ　ナカト　峯丸

雨　ヒ　の夜　ヒ　小面や　トサ　皮石
祝日や　シナヌ　橋平
系橋　サヤヒ　枝長
筆や　ユチコ　雪潮
紫　アヒ　子容
伸　ヒセン　孤琴
如　ミヤラキ　楓下
芭蕉の日影や　ユチコ　三嵐

今川を傳ふのして杜若、文雪
夢を見ひらくて面白や考ひる スルガ 仙業
明方の霜を新かまくる シナヌ 兼分
伸る葉をよけくまくる菖蒲、喜川
居ハ七月と高くて油蝉、猩醒
庭一面るものの新樹 フシノ 筆人
夕影の森の新樹 ユチコ 素行
山蟻乃情をの作る琴 テハ 琴堂

牡丹見る眼ゆ小鳥も驚うて、古翁
先生の旭を待て牡丹の節 サカ 柏翠
花の雪うけのさ花の雪 ユチコ 豆風
見もとへ日のさ花書る雪 ユチコ 白峰
蕃を家うて孫を蕃うて イヨ 露丈
金屏の松を松の音 サツマ 佳昌
俤を本や獨掛ゆ、ハ蕃る、 鷹門
初蝶の行方の蝶 ユチコ 其扇

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]月[illegible]て[illegible]獨[illegible]事　ノト　濱[illegible]

[illegible]　あゝ　五月

麦を播き[illegible]も五月の[illegible]　テハ　松[illegible]

夜の[illegible]や[illegible]　、　大[illegible]

[illegible]　、　松月

[illegible]の[illegible]乃一[illegible]　ドモ　[illegible]軍

[illegible]　サカミ　採石

川[illegible]　、　[illegible]

採除[illegible]つに入梅の[illegible]　ヲ　今哉

五月雨の頃乃[illegible]　イセ　杜鵑

栗の[illegible]　マツ　三千坊

[illegible]　オク　二朝

夕[illegible]　ナニハ　月尤

[illegible]の[illegible]　パリマ　芋國

[illegible]　クニハ　湯[illegible]

[illegible]　マチコ　玉[illegible]

稿篇や吟篇を拾ひ人麿（やまと）渡節
月渡や白鳥の立を殺を吟底、住峰
牧柱や恒ふる篇の秋、鳥居
山の井乃紅葉（アカミ）玉鉾
青苔と雖て薩摩（コカコ）海舟
篇や加ふる夕雨し 津川和風
青苔や恭ふ吟ふ人の篇も 不毛 緑和
けしの花雨ふる日雨間を乞 セキコ 山水

青雨ふる雨の吟と朱ふ利 テハ 御水
矣いきを思ふ青苔ふ海月亭 ヒセル 舒雪
桜桐の花さくや九輪の及ま コシコ 伍尺
むらさきもうらしきを鶯や流ふ ヨキコ 吟路
ふ乃ふ雨の中ふ鶯ふ乃 テハ 宇祢世
梯一田を仮説ひふ雨ふ足郎、玄子
水ふ蛍やふふ雨田植雨 カ、 柳壺
笠ふき植めの乃雨ふ木の葉ぶ ヨキコ 巳流

抽賀うたをや 阪田の仕翁塚 テハ 可刑

植竹なる苗を仕切やもとなる サト 文仙

竹葉を半を通すや茅ふれ オク 都丈

青山の嶺さもちき早うの カヒ 雷石

熱鉢を足を弗 鉢葉形 ユキフ 著蔦

一村を動さ流るや 蟬の羽 ミセン 一著

あまけハちうを高るや 蛭の羽 カ、 卓丈

活壱の雪ふとちき 赤ちき ナカ 金呂

内を居て縄を四方やとふ 蔓 ユキフ 尤物

雪ーちう 冷を地の清を部、 樫園

見るちうを高るの 清水ぶ ミナス 雀園

濁るあさとれ行ちうれ ムサシ 菓友

欠ちうを苔の加らあ 清を部 コウ 而后

色を又 蝶乃 山高ちぶ ミヤサカ 七丈

峯の角ハ 濁菓ちう 廉の 蔓 チヅコ 和戒

仏面ちう 陽ちう やとふ 濁菓ぶ ヒムカ 双鳥

椿さそハ池に浮ける弁天の影　サヤヽ　章園
高麗に咲きもてはやす雲の峯　カワサ　菁莪
新みどりなる柳の糸、東湖
稲妻のしたなる蓮の白露　ニヒ　松風
鶏うける浦茶を持て蓮のむ　イヨ　烏岬
見こさへうる蓮の花、竹所
五の色に分るや虹乃消ぬる　テハ　寛車
雲のうきに出て行て高田の面　オク　太良

板橋に雷も高く高田の車　ムサシ　千瑞
常に見て居ながら高き黒ノト　竹雨
名さへ悟るもたかやぶ　アキ　露峯
組合て夏へうつる弱工　コキュ　洞〻
さぶとさる夕影や雲の峯　イヤ　石影
象郎と絵の涼しき自松　メンコ　馬良
居眠りや後より拍子を忘れ　ヒセン　松宇
森をさと一四方に鶏の鳴　オク　田人

ふるゝ雨や蓼引ゐし休橋子　蓼の花

下葉をおしなべて涼しき夕部　雨蛙

秋くゝ部

星合や明日の夜を夜明るる　連志

折るゝせハ世をくもる夜の雲　正昇

数咲ハるゝや赤しき木槿ぶ　松什

紫竹ハ秋ゝも年を経て蟬ハ鳴　桃谷

まゝゝ太ゝ変りて蝦夷ぶ　芦窓

雲雀松ゝゝゝゝゝゝゝ利　大鵬

鶏頭やおのゝ〳〵蔓を放ゝゝ　杉磨

蕭の行ゝゝゝゝ蔓ゝ　尋化

行ゝ程の雲ゝ行ゝ秋ゝ月　ちはる

名月の隙ゝハ明ゝ明ゝ　小柯

仮初ゝ暑ゝゝ秋ゝ　朋山

野ちかの淀きうくや秋の雲　蕉生

秋の来て弗ハ家世と集よりう　京　橋宝

門川も掃て亜ちの蜂　テつく　等湖

初秋や角く紀四ちる名の新　アキコ　八袁

ちの縁や答を為ちの米林　オク　舉堂

初ちるや弱ちの郭ちて板のちく　テト　二丘

七夕やちよちうの明ちく　フタド　多世め

ちの星ちの多ちふと赤ちもちぶ　エキコ　爰邑

ちる影の羅通ちう一条ちう　カハ　北山

水ちうて切ちハ巷桔梗ちの郭　サカミ　月年

鈴の音乃ちちき拾ちの桔梗ぶ　アハキ　墨雨

色ちれハ雲ちきちちのちき　大ちと　臣二

咲止て後ちやちうちちれ色　イヨ　春儀

ちの日ちやちうちの秋の花　五高　東垣

森の宮交差点の[illegible]を相模[illegible]
行列の百姓[illegible]元を出る春　ノト　涼臺
[illegible]山[illegible]　イヨ　紫人
[illegible]　下ル　雪堂
[illegible]の中[illegible]　アツミ　芦岳
移書や破軍[illegible]　カカ　丈翠
[illegible]の上[illegible]　テハ　吳臺
松[illegible]光の[illegible]　カウヤ　移霧

私人の[illegible]尾花[illegible]　エチコ　秋篇
[illegible]　大ムラ　太素
[illegible]　エチコ　宇僊
木の[illegible]　、　抱嶺
[illegible]　ナカト　白宣
[illegible]　アハ　花笠
[illegible]　、　茶雷
[illegible]　[illegible]　碩水

[illegible]の[illegible]や[illegible]の月　[illegible]力

姫切ひく幟の頭や[illegible]仙花　ノト　呂雪

[illegible]や[illegible]の雲　サワマ　甚松

[illegible]を[illegible]　既醉

[illegible]の[illegible]月初　チクセン

[illegible]や[illegible]　ホコサ　如柳

[illegible]と[illegible]　三田二笑

[illegible]や[illegible]川の[illegible]　ミヤコ　[illegible]魚

[illegible]かく日[illegible]　アハ　木鳥

[illegible]や姫[illegible]　テハ　霞山

[illegible]や[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　日向　駝岳

[illegible]　オク　智鵬

[illegible]や八日の[illegible]　スハカ　抱布

[illegible]や[illegible]　サカミ　素溪

日[illegible]や[illegible]　エチコ　里英

遠き雲こうも多田や稲きらめ、　眉白
細投て俤て行や夢の雲、　柯亭
野の江田ともきものかりそ　アハ　赤十
川上へかりて春の朝の野　ヱチコ　守年
立寄す猿へきて秋の悲　シハメ　雪彦
言自や人ちるあらそ心　チセン　雨堂
行雁を潜や池のかいふ　ヱチコ　三甫
籠ホトホトのよ行自ふ　カヒ　欽哉

名月や赤きく潜め永の秋　ヱチコ　碧眠
めの自の物ちきを書　ヒチ　石邨
雲きれる猿と分ち自の宴　下モ　白鯨
赤中ま低ふ自の寒ふ、　三ヲ　雄
野ちをハやちきの寒自　上モ　尤谷
山をて野ちを一夜や秋の身　ヒセン　繁く
月の歌やうくしりて人の衰　京　杜鶯
敲ちをを一上て立をを　ヒタキ　桃二

生初は梨子の眼よりたかの野に　カウヤ　昇降
鈴音や持さしの行日の如く　アハキ　斎廉
眼のさめて枯ちゝ歩ゝ　イヨ　犬蓼
老の夕ぶきめて角ゝ野えゝ　アキ　雲ト
折ふすゝ猪ゝ　ヨチフ　土宝
夢買ゝさゝ行ゝ市の船、　栖家
藤枝の鶯うゝ色新ゝ、　生飢
冥ゝ一向をゝ地のひゝ、　赤年

敬ゝゝ帰て情ゝ　スルカ　勢山
編修て嘶ゝ　フンコ　杜厚
多ゝ　ミカ　ゝ林
剣ゝ眼のゝ菊ゝ　アキ　芝美
京ゝも赤ゝ　ヒコ　芝自
春ゝ宇の如ぬ　エチフ　蕉泉
美ゝ水岡も郭ゝ、　可晁
言ゝ経出ゝ、　恬我

新初て神事もまつる門田哉　チクセン　竹
赤柏や門松の新　サカミ　布石
むさし地の方に細形や庚申　テハ　化粧
雪の姿も初て咲る乃宗祐　アキ　茸古
都より紫山を背負て淀つき　ムサシ　五淀
雪外を加る苞の菌哉　三定　木霜
葉もなし入まて黄ばまる菌哉　テハ　稲洲
赤うなて入るまぬ木の実山　エチゴ　西晴

秋風の入さ高き宿哉　ヒタ　嵩高
散ふやそ重も高一時　ヒセ　于江
物人もかへしく見やる高哉　ヒコ　青年
人参の方よりさきうしき紅葉哉　イカ　章声
鶴よて多葉ふ新しる山家哉　イセ　流芳
激の上へ張出て家哉　明三仮　立宇
四上る水に流れうきて笑もち　エチコ　木山
流し物よる高一ち校る哉　サハて　東陸

きのふ迄くも山高やうふの秋の雲　素秋

蔓草の葉色変ずや秋ふかし　下ヶ井江月

好ふ山ろうや都の秋の雲　十二八　鐵兄

呼子鳥を報謝とやうふ九月尾　シナヌ　魁甫

追加

山を焼くもちうきりまきり　サヌキ　茂雄

枯てのく仲山ろうや山の秋　ナハリ　月底

葛の葉茂加れ枯れうる、　李蒙

身ゝ隈なくて出家の時雨　イセ　一巡

道くも黙つてい来る猫の恋　ヒセン　甫田

孫こ手の手繰ひきや別れ子、　子栄

寒ち世きこえぬものいうく山、　竹支

行春に青丹の色ぞ増さりける　蒼山
義堅のらの紙きくふ小さき宴（ナニハ）　林曹
青い空七分も持て時雨ける（タシマ）　太和義
我く葉の中より都の柳哉、　氏頼
物の色に如色に枯る芭可南（テハ）　西山宗
うれたて雨も降るぬ春の夕、　青逸
照降のさゝ波ゆゝ春の夕、　雪解
大きなる蛍くゆりもむ時雨哉、　耕朔

空解や垣に寄りし鄙の庵、　丘角
家鴨出てきいうう柳の京、　自山
茅舎やゝ一日雨乃ち氣、　瑞山
雨ふりて猫も住居の寂、　菊谷
行春や雄の尾も戦く竹、　海松
鳥なせて舞ものつゝ蓋の郭、　渡月
蔦一水一産の垣に寄くゝる、　買古
蛙を出て舞ものゝ秋の際、　角牙

行灯よりや針魚や松ふる、　羽人
見ぬ世の蛙ふかしぬる梅の雪、　文志
義かけ乃小溝流るる春の角、　双東
椿葉を恒の稿先みさまる、　芦蝶
ふるさとを新て走る、　如旭
風の走る京帰く秋明り　伊志　北東
川寺もふる朱雀と柳、　涼峰
雪の朝乃ふるめし初寺、　立石

絵まれを明の河を限りの子菜哉　松志　耕雪
清水の岸の都まるはや赤迄、　為允
水仙の供ふまるや手習子　アフミ　芦一
絵舟を渡る巨燈籠　エキコ　有木
正月も常の元来て海身が　弓湖
日を少し思て彼るや春の岸、　文巣
山焼し新ふる始まる青柳、　一花
町を新ふ家や雨うるむ、　丹志

善き人拔羅して出す新蕎麥、以都
風の寿藥と山を拔ける、月に
都内にも一度も蕎麥屋の看板の素（チラシ）を銷
退いた者しよ紙い紙しい蕎の芯（ムサシ）天由
根條十時清兄を案内して蕎麥屋、杉曉
書物をして書屋を思ふ紙うち（そこら）素行
言ふて地と新おそ相の芯、桃夕
水点へ七夕の夜乃踏うち、對著

大明しを消かう竹籠香、芦滴
敢て竹の根も有孫乃うち洗ふ、宗古
笛吹きて一人も著を結うち、田禾
寄かうち爲も志めう蕎麥、青雄
太郎を渡しう踏うるの日乃（ヒムカ）月雄
山吹や毛見を蕎麥ハ夫に来う、涼瓦
淵の先に只めきん出て梅の花（ワカナ）子琴
水蓮や咲時きを待くもり、宇坊子

生姜と藷やまめ豆畑打　抵ヤ　要重
豆うゝちゝ子洞とたゝや麦のね、ハ豆
ほうゝ豆集ちゝ　竹ゝ
藷波はと見うゝかゝる柳う亀　ミンコ　ホ豆
紡時ちハ豆屋もゝや麦の西　カク　埋山
数ゝハ洞ゝ赤のうゝ山　サヌキ五蕉
写ゝたゝぬ郭ひハきめと紡の家、木長
加ゝまゝひやゝと義ぬ鬼ふ撥　カハチ　ふ二つ

洞の洞ゝ月やゝ木彩を砥ゝ庭、尤栗
加減ゝくゝ子ゝ高きゝ数ゝ　月ゝ
紡ゝゝ小屋ゝゝうゝの義ゝ系　ハリマ　義村
ひゝ竹の遠利ゝゝや家の巾、月土
ひとゝゝ形漕ゝゝ花可車　ゝゝ　荷了
稗ゝゝやゝゝ稗着ゝも涼む藤　スハウ　赤兄
ゝゝ月ゝあゝ洞ゝ畑ゝゝゝ寸　フンコ　麦屋
ゝゝのゝゝゝ数やゝのふゝふ　ユキコ　道旋

五月雨のあうらに秋の立位の春　ユキヲ　雪晴

釣殿に傘のふさき亀子哉　子相

望の雨とあるに小雨の形、象保

立雲の猿ゝうやゝ白出、況墨

花ゝ来て手をたれの影ひめ、友相

おろす牧の春の烈しや青ゝ　シナヌ　榜山

老を入る孫私み雪小ゝ形　サカミ　歳之め

釈の橋一橋の音ちゝ望の月　上毛　不定

[illegible]　柳明　アツミ　葉碎

車引ひきぬ葉葉よ[illegible]

引あるゝ伸ゝ[illegible]　上毛　松驢

二日ゝ[illegible]ふ月　フシコ　月盃

ゝゝ[illegible]　ヤマト　井泉

[illegible]　徐覚

[illegible]　ユキヲ　三亭

京を出て今山科を不出酒、九宝

春風にふゆと眠る日枯木かな　よし女
曇りけん帰して入きぬ残雪川　竹葉
蝉なくやなほ時雨近き微時計　新
庭のへを活て梅あり梅の宿　蒿子
山乃尾の岨出しけり時雨かな　宋山
雨の日に大きな滝としる牡丹かな　サヌキ　葵丈
雲の根乃松に広るや夜木立　蓬洲
松も交し堤の動きや夏の川　オウ　清民

過雨の掃出して残る蟻かな　イヨ　一丸
行秋に小鍋煮る松露の角　ミトメ　梅有
竹藪乃色もさめける卑雀かな　上毛　百牙
湿気みの蚊帳もつるや山の坊　素三
玉巻て破をさらも芭蕉かな　倚文雅
ふさく眼に雲を更て初しくれ　瑤星
二三本一手につまみし小角豆かな　文河
折く傘に折りて入られハ蛛の網　砂雀

蚊遣火の加減しながら蒸（ムせ）汝乎
為や蚊帳も更る頃なり、保多
朝夕涼しきやなの秀、梅芳

追悼

枯野のむさんと折しし枝の露　羽観
メ切に一句とあもきとうが　史源
紬至折手もたゆたふ蚊遣　蚊子

激の時や秋の空ゆる星祭て（オリ）　英多
あやめふくまとまとしく屋根の湯　李堂
口上乃先と為ふや菖の風（カワリ）　呼牛
菖蒲の手入ながらや秋つゝ（ワカハ）　枕窓
仕出手拭と見えて初鹿（ムサシ）　西女
水仙や紀ふなしく葉の陰（きに）　青芝
熱毛と和て為やの茶、　冬秀
大象結洗ながら冬の上（サカミ）　紹瓜

乳ちちきのうたを引出す小春哉　ミナヌ　樗平

打ちうち霧掛ひくり萩の色、　敦爲

物思ひて眺ぬ庵乃梶　ムサレ　月火

涼しさや雅り吟しうら神の秋　ト毛　竹由

人形の枝ちらす夏の月　ユチコ　南嶋

いろいろ京の西一や秋の雲　スルカ　素門

もゝのくさやく禊手山乃沢　ユキヒン　陸鶯

松尾を奉りて秋山ぶり　フセン　八重丸

古稀の書を迎へて

又ふたゝび物もうらぬて門うち　サカミ　樗一

ちらしやの猪酒も添て智迎文　十二八　懶石

不二見ても思ひまさるる新酒の夕　ユチコ　雪雲

壺焼の地よりかく松やちり沙　ナカト　子船

思ひけて思さやうやや春の雪　ノト　桜堤

松ちらうや新の雪も秋の雲　ユチコ　意翁

年の雪茶と愛てひやうせ　サトラ　志

水際よりも晴るを霧の郡（サト）　笠載
照はしく雲る時雨夕月夜（エチゴ）　之白
鶯素よ粉千の綱乃雲の雫（イワ）　一愛
ちの愛を嬢ひとつて忘を急（トモ）　笑山
多野川て濡雲乱れ恭子の雫、　龍越
桜と踏ハひとつと物る抵別が、　蘇林
蔦おそ陽を振ふ一筆の角、　蔦友
子の丈きをよ言しおき扇（イセ）　牧琴

ひさ美と茶もおろろ青ゴ（サカミ）　東郷
末石時て蔭の子通てきよろ、　丸象
風乃笠や板宮の文言（イワ）　儿年
岡ちしい雷のうゴや枇杷の雫（ユキヒン）　太眼
降つく雨片せて和ーれ、　蓮雨
余のよちんゑ杖をめちも　呉城
弁蔦く夏茶おむるの影（ヒメナ）　啄秋
白魚やまあいて通る手習子（大坂）　紅琴

古隆之隆房卿しをくてきみてくる　和歌

行春ひさしやゆふ日のおとさすら　宗伯

一時百年の時うきを木の下　花鳥

いきをしやゆふの色をとさるる　乙夏

文章園主人書

自然堂鳳朗小傳

自然堂鳳朗姓源氏後熊谷人初稱巖島弥仕于本藩少好俳諧自號京傳及于後東都遊遍名尾張問道于義仲寺蝶夢行東脩於曉臺之門二師皆一見器之京弥居職盡力且欲有興人異者肥後

古十四郡合加米良五家二郡為
十六郡原弥謂米良五家ニ岡山野
寛曠顧ミ人煙未満ニ地為公開
之而点可乎乃申官探ニ得達神
世ニ人ニ寛敦戊午辞仕游歴四方
邂逅二柳菴及竹友士朗諸名家於
是尋祖翁ニ精蹟於奥ニ細道彷
清人ニ舶来于崎ニ獺浦成薬徧
諸州遂来江戸ニ居ル所榛馬場窓
迎竹林日聴鶯聲人咲曰鶯笠菴
對竹時興成美道義等旦夕唱和
文政十一年ニ在稲住中橋大工街
明年春羅災又出游于上國鶯笠
嘗志悉談學而未得師友偶会鶴

海西在浪華藩書萬笠嘉就
間其説深與海西交是故也天保
初年還于江戸作園城西飯
倉更稱今歸迎今俳風特爛
糟粕而深朗造詣自清新實出
于自然四方士推以為一代宗
匠歲癸卯之條公為概志奏授明

神之號乃召朗賜神宣公時呼
朗為老下翁宜可謂極名譽矣
鳳朗性淳厚而有義氣不好飲
事節檢其應列參大夫之招殆羞
滿前不敢湯下箸所食不過一汁一
菜四十歲以後不敢近婦人其行
如持戒者然矣而惡其顏厚生

涯分剃髮毎朝沐浴但取梳清潔
白分没静坐自然知化之已
十一月廿八日没享年八十有四
鶴峯戊申撰
中根元石書